

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

言語処理学会事務局:

〒152 東京都目黒区大岡山 2-22-1
東京工業大学 大学院情報理工学研究科
計算工学専攻 田中研究室内
tel: 03-5734-3046 fax: 03-5734-2915
<http://www.kyutech.ac.jp/nlp/>

内容:

- 言語処理学会第4回年次大会(NLP-98)開催案内
- 言語処理学会第4回年次大会併設ワークショップのご案内
- 拡大評議員会開催のおしらせ
- 編集委員会からのおしらせ
- 自然言語処理特集号の投稿募集案内(再掲)

★ 第4回年次大会は1998年3月23～26日に九州大学で開催いたします。また、年次大会に併設して3月27日にワークショップ「テキスト要約の現状と将来」を開催いたします。奮ってご参加ください。

★ 第4回年次大会期間中1998年3月23日に拡大評議員会を開催いたします。

言語処理学会第4回年次大会開催案内

4th Annual Meeting of the Association for Natural Language Processing (NLP-98)

日時・会場

開催日時:	平成10年3月23日(月)	チュートリアル
	3月24日(火)~26日(木)	本会議
	3月27日(金)	併設ワークショップ
会場:	九州大学工学部(福岡市東区箱崎) (ワークショップ会場は 休暇村 志賀島)	
懇親会:	3月24日(火)午後6時~	

例年3月に開催しております言語処理学会年次大会を今年度は九州大学で開催します。例年通り、自然言語に関する理論から応用まで幅広い研究発表を予定しています。従来通り研究発表は口頭による一般発表(質疑とも20分間)とポスター発表のいずれかの形態を取りますが、今回は、特に、文系と理工系の研究者の交流をより密に図るため、ポスター発表を積極的に募集しました。また、今回の大会では、「コーパスに基づく談話・対話研究」という特別セッションを設けます(詳細は後述)。

今回の大会では、以下のチュートリアルと招待講演を予定しています。

【チュートリアル】 3月23日(月)

Tutorial 1: 9:00-10:45

斎藤 衛(南山大学)

「生成文法をめざすもの(仮題)」

Tutorial 2: 11:00-13:00

高野佑二(慶応大学)

「生成文法理論におけるパラメータ研究 - 日英語比較統語論の観点から」

本発表では、生成文法理論のミニマリストプログラムにおけるパラメータ研究の一例として、Takano (1996) 及び Fukui and Takano (1997) で提案された理論と分析を取り上げ解説する。自然言語における音声と意味の対応関係を説明する際に、従来の生成文法理論では、抽象的な階層構造と構造内の要素が音形上どのような順序で現われるかを規定する「方向性のパラメータ」をたててきた。これに対し Takano (1996) 及び Fukui and Takano (1997) は、階層構造における要素間の非対称的関係を線形順序の非対称的関係(語順)に直接反映させる理論を提案している。この理論では言語間の語順の違いは従来の方向性のパラメータではなく、階層構造における要素の位置を規定するパラメータにより説明される。またこの理論は、従来の理論では説明が困難であった言語間に見られる語順と他の統語現象の相関関係(例えば、OV 言語では格表示が豊富であり、語順が自由で、疑問文での疑問詞の移動がない、など)を統一的に説明することができる。この点を日本語と英語の比較を通じて論じる。

Tutorial 3: 14:00-17:00

安倍直樹(NEC)

「能動学習と自然言語処理」

能動学習とは学習者自らとる行動により情報獲得しつつ性能を向上させていくような学習形態をさす。能動学習は、機械学習の分野において、「質問からの学習」や「強化学習」等、いくつかの枠組で研究されてきた。また近年、情報検索等の分野においても情報の選択的サンプリングに有効な方法論として注目されてきている。本チュートリアルでは、様々な能動学習の枠組や方法論を紹介するとともに、それらの自然言語処理への応用可能性について論じる。特に、「対話システム」における知識獲得、コーパスベース自

然言語処理の課題であるデータ不足の解消等の観点に着目し、これらの技術の適用可能性、および技術的な課題等について論じる。

【招待講演】 3月24日(火)、26日(木)

招待講演1：3月24日(火) 1:00-2:30

橋元良明(東京大学社会情報研究所)

「激変する情報環境と対人コミュニケーション」

近年、メディア・テクノロジーの発展は益々加速の一途にある。我々の日常生活においても、技術革新の波を受け、とくに通信や情報享受、遊びの領域において、情報行動の様相は一変した。このような情報環境の変化は我々のコミュニケーション行動や意識にどのような影響をもたらしているのだろうか？ 実際に、我々の対人関係や意識、あるいは言語行動に変化は生じているのだろうか？ 今回の報告では、青少年への影響に関する実証的研究の知見を中心に、メディア利用とコミュニケーション行動の関連を考察する。また、映像メディアの発展が将来的に人間の認知構造に及ぼしうる可能性についても言及する。

招待講演2：3月26日(木) 1:00-2:30

乾 敏郎(京都大学文学部心理学教室)

「言語処理の脳内メカニズム」

人間の脳内で言語処理や言語獲得がどのようになされているかについて、生理学、神経心理学、認知心理学、計算論的神経科学などの知見に基づきモデル化を行う。

【特別セッション】「コーパスに基づく談話・対話研究」

近年、電子化テキスト・音声対話コーパスなどの言語資源が蓄積されるにともなって、実データに現れる言語現象の分析を重視した実証的なアプローチが盛んになるとともに、理論的研究においても実例に基づく検証の重要性が再確認されつつあります。とくに、談話・対話の分野においては、言語使用の実場面との関わりが強く、実データに基づく研究は不可欠と言えるでしょう。そこで、本大会では特別セッションとして、コーパスに基づく談話・対話研究と題し、以下のような話題に関して口頭発表を募集し、議論の場を設けたいと思います。

- 発話行為、比喩、照応・代名詞などに関する実証的研究
- 談話分析(談話構造、修辞構造、談話標識など)
- 音声対話分析(話者交替、あいづち、ジェスチャーなど)
- 話し言葉の分析(省略、倒置、言い淀み、言い直しなど)
- 談話理解・生成、対話モデルの実データに基づく検証
- その他、本セッションに関連が深いと思われるもの

言語学、音声学、国語学、心理学、日本語学、日本語教育学など、日頃「言語処理」とは関連が薄いと考えておられる人文系の研究者からの積極的な参加を期待しています。

【併設ワークショップ】

ワークショップ「テキスト要約の現状と将来」を3月27日(金)に開催予定です。ワークショップのご案内を参照してください

大会発表申し込み

発表申し込みは既に締め切りました。

採否の通知： 1998年1月下旬

最終論文の提出期限： 1998年2月末日

大会参加申し込み

大会の参加申し込みは、添付の申し込み用紙（チュートリアル、大会、ワークショップ兼用）を利用して、以下にお送り下さい。

送付先: 〒 565 豊中市新千里東町 1-4-2 千里 LC ビル 14F
学会センター関西内 言語処理学会年次大会係
fax: 06-873-2300
email: o-socie@bcasj.or.jp

【参加費】

大会		2月27日まで	それ以降	会場
	会員:	4,000 円	6,000 円	6,000 円
	学生会員:	2,000 円	3,000 円	3,000 円
	非会員:	6,000 円	9,000 円	9,000 円
	学生非会員:	3,000 円	4,000 円	4,000 円
	予稿集のみ:	5,000 円	5,000 円	3,000 円

チュートリアル		2月27日まで	それ以降	会場
	会員:	3,000 円	5,000 円	5,000 円
	学生会員:	1,500 円	2,000 円	2,000 円
	非会員:	5,000 円	8,000 円	8,000 円
	学生非会員:	2,000 円	3,000 円	3,000 円
	予稿集のみ:	4,000 円	4,000 円	3,000 円

懇親会(多くの方のご参加をお願いします。なるべく事前申し込みをお願いします)

一般:	3,000 円	3,000 円	3,000 円
学生:	2,000 円	2,000 円	2,000 円

プログラム委員会

委員長: 松本裕治 (奈良先端大)

乾健太郎 (東工大) 郡司隆男 (大阪大) 田窪行則 (九州大) 武田浩一 (日本 IBM)

伝康晴 (奈良先端大) 富浦洋一 (九州大) 永田昌明 (NTT) 中野洋 (国語研)

橋田浩一 (電総研) 丸山直子 (東京女子大) 峯恒憲 (九州大) 李航 (NEC)

実行委員会

委員長: 日高達 (九州大)

江原暉将 (NHK) 富浦洋一 (九州大) 峯恒憲 (九州大)

言語処理学会第4回年次大会併設ワークショップのご案内

以下の要領で開催いたしますので、ふるってご参加ください。

日時・会場

開催日時： 1997年3月27日(金) 9時50分から18時30分(27日夜は会場に1泊します)

会場： 休暇村 志賀島(しかのしま)

〒811-03 福岡市東区勝馬1803-1 (Tel: 092-603-6631 Fax: 092-603-6634)

(博多埠頭から船で志賀島まで28分、そこから休暇村の送迎バスで10分)

ワークショップの名称： 「テキスト要約の現状と将来」

開催趣旨

近年電子化されたテキストが大量に利用可能となり、テキストを「要約」する必要性が増して来ており、自然言語処理の分野でも「要約」に関連した研究が増えてきている。これは日本に限らず、欧米でも同様である。例えば、米国では、DARPAの支援するチップスタープロジェクトで要約を新しい研究課題としているし、今年のACL97では、要約に関するワークショップが開かれ、盛況で多くの研究者が集った。言語処理学会のワークショップは、「テキスト要約」をキーワードとし、要約に興味を持つ研究者が一堂に会する場を実現するものである。そこで最新の研究の紹介をし、今後の展望について意見を交わす。今後、要約の研究を進めるにあたり意義あるワークショップにするため、多くの方の参加を希望する。

提案者

増山 繁 豊橋技術科学大学 知識情報工学系
野村 浩郷 九州工業大学 情報工学部 知能情報工学科
奥村 学 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科
奥村 明俊 日本電気 C&Cメディア研究所
落谷 亮 富士通研究所 メディア統合研究部
福本 淳一 沖電気 関西総合研究所
岩山 真 日立製作所 基礎研究所
若尾 孝博 通信・放送機構 渋谷上原リサーチセンター

[連絡先・問い合わせ先]

若尾 孝博

通信・放送機構 渋谷上原リサーチセンター

〒151 東京都渋谷区上原3-23-5 オーガストハウス 2F

電話 03-5790-7065 Fax 03-5790-7066

メール wakao@shibuya.tao.or.jp

プログラム

発表件数：12件

時間配分：発表1件当り30分（25分発表+5分質疑応答）

9:50~10:00 挨拶（増山先生）、事務伝達（若尾他）

10:00~12:00 セッション1 座長：下畑 光夫（沖電気）

- (1) ニュース文を対象にした自動要約
○加藤 直人（NHK放送技術研究所）
- (2) テレビニュース字幕のための自動要約
○若尾 孝博（通信・放送機構）、江原 暉将（NHK放送技術研究所）、白井 克彦（早稲田大学）
- (3) 文中の重要部抽出と言い替えを併用した聴覚障害者用字幕生成のためのニュース文要約
○三上 真、山崎 邦子、増山 繁、中川 聖一（豊橋技術科学大学）
- (4) 抄録を利用した検索
○望月 源（北陸先端大学）、岩山 真（日立 基礎研究所）、奥村 学（北陸先端大学）

12:00~13:00 昼食

13:00~15:00 セッション2 座長：若尾 孝博（通信・放送機構）

- (5) 観点に基づいた新聞記事の重要文抽出に関する心理実験と考察
○難波 英嗣、奥村 学（北陸先端大学）
- (6) パッセージ分類: 視点を考慮した文書自動要約に向けて
○岩山 真（日立 基礎研究所）、徳永 健伸（東京工業大学）
- (7) パターンと構文情報による固有名の情報抽出
○下畑 光夫、福本 淳一、杉尾 俊之（沖電気 関西総合研究所）
- (8) 文タイプと文間関係に基づく要約処理
○中村 貞吾、永井 秀利、野村 浩郷（九州工業大学）

15:00~15:15 休憩（15分間）

15:15~17:15 セッション3 座長：加藤 直人（NHK放送技術研究所）

- (9) 5W1H 情報によるテキスト要約
○奥村 明俊、池田 崇博（NEC C&Cメディア研究所）
- (10) パラメータの学習による文章構造解析と自動抄録
○山下 卓規、奈良 雅雄、田村 直良（横浜国立大学）
- (11) 文書の意味的階層構造の自動認定に基づく要約作成
○仲尾 由雄（富士通研究所）
- (12) テキスト自動要約技術の現状と課題
○奥村 学、難波英嗣（北陸先端大学）

17:15~17:30 休憩（15分間）

17:30~18:30 パネルディスカッション

座長：野村 浩郷（九州工業大学）

パネラー：増山 繁（豊橋技術科学大学）、奥村 学（北陸先端大学）

：仲尾 由雄（富士通研究所）、岩山 真（日立 基礎研究所）

（夕食後 自由行動、翌朝に解散。）

ワークショップ参加申し込み

[参加申し込みの締め切り]

1998年2月末日(定員になり次第締め切ります。)

[参加費]

会員	16,000円
学生会員	12,000円
非会員	19,000円
学生非会員	15,000円
資料のみ	5,000円

参加申し込みは、別紙参加申込用紙に記入の上、(できれば、電子メールで)以下にお送り下さい。なお、宿泊予約は学会で一括して行いますので、個人での手続きは不要です。

[参加申し込み先]

〒565 豊中市新千里東町 1-4-2 千里 LC ビル 14F
学会センター関西内 言語処理学会年次大会係
fax: 06-873-2300
email: o-socie@bcasj.or.jp

言語処理学会 第 4 回 年次大会

参加申し込み書

送付先: 〒 565 豊中市新千里東町 1-4-2 千里 LC ビル 14F
学会センター関西内 言語処理学会年次大会係
fax: 06-873-2300
e-mail: o-socie@bcasj.or.jp

この申込書は大会・チュートリアル・ワークショップ参加者と参加費の入金を正確に把握するためのものです。正確にご記入のうえ送付ください。

大会参加費 (2月27日以前 / 以後):

会員:	4,000/	6,000円	×	件
学生会員:	2,000/	3,000円	×	件
非会員:	6,000/	9,000円	×	件
学生非会員:	3,000/	4,000円	×	件
予稿集:		5,000円	×	件

参加者 01:

所属 01:

参加種別 01: 会員 学生会員 非会員 学生非会員

参加者 02:

所属 02:

参加種別 02: 会員 学生会員 非会員 学生非会員

参加者 03:

所属 03:

参加種別 03: 会員 学生会員 非会員 学生非会員

チュートリアル参加費 (2月27日以前 / 以後):

会員:	3,000/	5,000円	×	件
学生会員:	1,500/	2,000円	×	件
非会員:	5,000/	8,000円	×	件
学生非会員:	2,000/	3,000円	×	件
予稿集:		4,000円	×	件

参加者 51:

所属 51:

参加種別 51: 会員 学生会員 非会員 学生非会員

参加者 52:

所属 52:

参加種別 52: 会員 学生会員 非会員 学生非会員

参加者 53:

所属 53:

参加種別 53: 会員 学生会員 非会員 学生非会員

懇親会参加費 (なるべく事前申し込みをお願いします):

一般: 3,000円 × 件
学生: 2,000円 × 件

参加者 61:

所属 51:

参加種別 61: 一般 学生

参加者 62:

所属 62:

参加種別 62: 一般 学生

参加者 63:

所属 63:

参加種別 63: 一般 学生

ワークショップ参加費:

会員: 16,000円 × 件
学生会員: 12,000円 × 件
非会員: 19,000円 × 件
学生非会員: 15,000円 × 件
予稿集: 5,000円 × 件

参加者 81:

所属 81:

参加種別 81: 会員 学生会員 非会員 学生非会員

参加者 82:

所属 82:

参加種別 82: 会員 学生会員 非会員 学生非会員

参加者 83:

所属 83:

参加種別 83: 会員 学生会員 非会員 学生非会員

合計金額: 円

送金方法:

銀行振込 三和銀行
千里中央支店
普通預金口座 5243431
口座名義 言語処理学会大会 代表 田中 穂積

郵便振替 番号 00920-1-22357
名称 (財)日本学会事務センター大阪事務所

送金年月日: 年 月 日

送金人名義:

通信欄:

連絡先:

住所: 〒

所属:

氏名:

tel:

fax:

e-mail:

注1) 参加者が3名以上の場合は、上記と同様に番号を追加してください。

注2) 送金方法はどちらか一方を記入してください。

注3) 手数料は各自ご負担ください。

拡大評議員会開催のおしらせ

第4回年次大会期間中に拡大評議員会を開催いたします。拡大評議員会は、学会員のみなさまのご意見を学会運営に反映させるための場です。学会運営に関するご意見をお持ちの方は是非ご参加ください。

開催日時: 平成10年3月23日(月) 17:30~18:30
会場: 大会会場内(詳細は掲示等でお知らせいたします。)

編集委員会からのおしらせ

「自然言語処理」で企画しております特集号「談話, 対話の心理学的, 言語学的モデル」には多数の方から投稿いただきありがとうございました。現在, 査読を進めております。ほぼ第1回目の査読が終り, 著者が照会事項を吟味して改訂作業を進めている段階です。特集号の刊行予定は査読作業の進行状況に依存いたしますが, 半年後の刊行を目指して努力いたしております。なお, 今後も特集号の企画を検討しておりますので, 御期待ください。

「自然言語処理」編集委員会

自然言語処理特集号の投稿募集案内(再掲)

テーマ: 音声認識・理解・合成のための日本語処理

特集の趣旨:

音声認識・理解・合成のための手法の研究は言語に依存しない普遍的なものとして進めることが可能で, 国際的にも広く成果を発信することができます。しかしながら, 言語独立な部分と言語固有の部分があって, 日本語を対象とする音声認識・理解・合成を高度化するためには, 日本語に適した処理を考える必要があります。

例えば, 音声認識のための統計的な言語モデルを構築する場合, 英語であれば単に新聞記事などを集めて単語の接続を数えれば良いのかもしれませんが, 対象が日本語であると, 新聞記事などを集めるだけでは不十分です。単語の接続を数えるためにはまず単語ないし形態素に分割する必要があり, どんな単位にどのようにして分割するかという課題を避けて通ることはできません。

また, 日本語音声合成の品質を高めるためには, 音声合成に適した日本語のテキスト処理を施す必要があります。読みやアクセント, 息継ぎのタイミングを考慮した日本語テキスト処理の研究と, いわゆる自然言語処理の研究は別の場所で行なわれ, これまであまり交流する機会がなかったように感じます。

そこで, この特集号では, 音声認識・理解・合成のための日本語処理をテーマに取り上げます。音声研究者からは言語処理の問題と言われ, 言語処理研究者からは音声固有の問題と言われ, その狭間で従来はあまり取り上げられなかったり, 発表する場のなかった話題を積極的に取り上げます。

対象領域:

日本語に適した音声認識のための統計的言語モデル
音声理解を高度化するための日本語処理手法
音声合成を高度化するための日本語処理手法
日本語の話し言葉の特徴分析とそれを扱う計算モデル
音声対話処理を高度化するための日本語処理手法
その他本特集号の趣旨からみて適切と思われるもの

投稿資格:

音声や言語に関心をもつ研究者(例えば, 言語学者, 国語学者, 計算言語学者, 心理学者, 工学者, 理学者)ならば出身, 現在の研究分野は問いません。なお, 論文は通常の査読過程を経た上で掲載の是非が決定されます。

特集編集委員:

市川 熹(千葉大学)
速水 悟(電子技術総合研究所)
竹沢寿幸(ATR 音声翻訳通信研究所)

(集まった論文の内容に応じて委員を追加する予定です)

投稿締め切り:

1998年3月31日

原稿執筆要領:

「自然言語処理」の原稿執筆案内参照.

「音声認識・理解・合成のための日本語処理」特集号への投稿であることを明記して下さい.

問い合わせ先:

学会に関する問い合わせは「学会センター関西」にお願いします.

〒565 豊中市新千里東町 1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル 14F

学会センター関西 (担当: 山元 理恵)

tel: (06)873-2301 fax: (06)873-2300

email: o-socie@bcasj.or.jp

【 ニュースレター担当: 片桐恭弘

〒619-020 京都府相楽郡精華町光台 2-2

ATR 知能映像通信研究所

fax: 0774-95-1408

e-mail: katagiri@mic.atr.co.jp

】

言語処理学会第4回年次大会プログラム

開催日時: 平成10年3月23日(月) チュートリアル
3月24日(火)～26日(木) 本会議
3月27日(金) 併設ワークショップ

会場: 九州大学工学部(福岡市東区箱崎)
(ワークショップ会場は 休暇村 志賀島)

懇親会: 3月24日(火)午後6時20分～

[チュートリアル]

チュートリアル1 3月23日(月) 9:20-10:50

生成文法のめざすもの(仮題)

斎藤 衛(南山大)

チュートリアル2 3月23日(月) 11:00-13:00

生成文法理論におけるパラメータ研究 — 日英語比較統語論の観点から

高野 佑二(慶応大)

チュートリアル3 3月23日(月) 14:00-17:00

能動学習と自然言語処理

安倍 直樹(NEC)

[招待講演]

招待講演1 3月24日(火) 13:00-14:30

激変する情報環境と対人コミュニケーション

橋元 良明(東京大)

招待講演2 3月26日(木) 13:00-14:30

言語処理の脳内メカニズム

乾 敏郎(京都大)

[一般講演 講演発表・ポスター発表・特別セッション]

A1 3月24日(火) 9:20-12:00 談話・対話

A1-1 文脈制約によるタイ語会話文法モデルの構築

○ Chumphol Krootkaew・永井 秀利・中村 貞吾・野村 浩郷 (九工大)

A1-2 発話状況に基づく音声認識候補の再順序付け

○岩本 秀明 (ATR)・妹尾 正身 (NTT ソフトウェア)・荒川 直哉・横尾 昭男・森元 暎 (ATR)

A1-3 決定木による日本語ゼロ代名詞補完の性能評価

○山本 和英・隅田 英一郎 (ATR)

A1-4 Topics and Spoken Language Recognition

○ Kristiina Jokinen・田中 英輝・横尾 昭男 (ATR)

A1-5 発話意図を理解する協調的対話モデル

○中島 玲子・東条 敏 (北陸先端大)

A1-6 課題解決のための対話における照応・省略の先行詞の認定

○渡辺 祐樹・吉谷 祐作・渥美 清隆・増山 繁 (豊橋技科大)

A1-7 照応・時制の underspecified な談話表示構造

○緒方 典裕 (学振特別研究員)・金山 博・辻井 潤一 (東京大)

A1-8 中国語三人称代名詞照応現象解析の一手法

○于 素秋・横山 晶一・西原 典孝 (山形大)

B1 3月24日(火) 9:20-12:00 語彙 I

B1-1 コーパス中の特徴と文法的意味的情報を統合的に用いた新聞記事中の固有名詞認識

○大石 巧・黒橋 禎夫・長尾 真 (京都大)

B1-2 辞書検索に用いる有限オートマトンの構成と実装

伊東 秀夫 (リコー)

B1-3 自動ターム抽出における候補の順位付けと選択方式の評価

○中川 裕志・森 辰則・斉藤 貴也 (横浜国大)

B1-4 大規模コーパスからの関連語自動抽出

颯々野 学 (富士通)

B1-5 A Computational Account of Modality-Based Case Frame Transformation

○ Timothy Baldwin・徳永 健伸・田中 穂積 (東工大)

B1-6 特定コミュニティの文献からの言語知識の獲得

○西野 文人・出羽 達也・福重 貴雄 (EDR)・辻井 潤一 (東京大)

B1-7 学術論文の和英著者キーワードを用いた多言語クラスタ作成の試み

相澤 彰子・○影浦 峯 (学術情報センター)

B1-8 日本語専門用語の量的構造の分析について

影浦 峯 (学術情報センター)

C1 **3月24日(火) 9:20-12:00** **統語解析 I**

C1-1 係り受け制約を表現する文脈自由文法への文節文法の組み込み

○松井 裕二・田辺 利文・富浦 洋一・日高 達(九州大)

C1-2 既存の電子化辞書から獲得した格フレームによる構文的曖昧さ解消

○吉田 真也・峯 恒憲・雨宮 真人(九州大)

C1-3 日本語係り受け解析の高速化手法

○中山 拓也・松本 裕治(奈良先端大)

C1-4 係り受け解析のための日本語述語句の細分類

白井 諭・畑山 満美子(NTT)・○木村 淳子・十河 則子(NTT アドバンステクノロジー)・

横尾 昭男(ATR)・池原 悟(鳥取大)

C1-5 格フレーム解析を統合した日本語係り受け解析

○松尾 義博・白井 諭(NTT)

C1-6 素性構造処理言語 LiLFeS の最適化技術

○吉田 稔・牧野 貴樹・鳥澤 健太郎・辻井 潤一(東京大)

C1-7 実用的な HPSG 文法のための二つの手法: 型の Combining と選言的素性構造の Packing

○宮尾 祐介・鳥澤 健太郎・建石 由佳・辻井 潤一(東京大)

C1-8 並列 HPSG パーザー

○二宮 崇・鳥澤 健太郎・辻井 潤一(東京大)

A2 **3月24日(火) 14:40-16:20** **情報検索**

A2-1 日本語学習用対話例データベースのための学習項目に基づいたインデクシングの自動化について

○馬目 知徳・加藤 伸隆・神田 久幸・伊丹 誠・伊藤 紘二(東京理科大)

A2-2 学術情報検索における異表記同義・同表記異義の分類・分析および処理

藤崎 博也・大野 澄雄・○阿部 賢司・戸井田 和重・八杉 大輔(東京理科大)

A2-3 格フレームを用いた情報検索

○宮川 和・徳永 健伸・田中 穂積(東工大)

A2-4 エピソード検索における適合レベルの調整

○池田 崇博・奥村 明俊(NEC)

A2-5 形態素解析性能の検索システムに与える影響

○多田 智之・金岡 秀信(オムロン)

P1 **3月24日(火) 14:40-16:20** **ポスター(言語分析)**

P1-1 日本語の格助詞「に」の意味領域に対応する韓国語の助詞

○朴 奉相・佐藤 滋(東北大)

P1-2 英語由来の外来語における音節数増加の音韻的要因: 日韓語比較

○Choi Hyunchoel・佐藤 滋(東北大)

P1-3 Web におけるニュースの表現

○清水 由美子 (武蔵工大)・長澤 陽子 (駒沢女子大)・中島 誠一 (ポニーキャニオン)

P1-4 Web における現場指示表現と、情報の画像依存度

○長澤 陽子 (駒沢女子大)・清水 由美子 (武蔵工大)

P1-5 心的語彙の検索速度に影響する要因について (4)

久野 雅樹 (電通大)

P1-6 日本語の照応理解ストラテジーに関する心理言語学的考察

横川 博一 (大阪大)

Q1 3月24日(火) 14:40-16:20 ポスター (音声・談話)

Q1-1 接続情報を利用した多段階分割復元手法の話題変化への追従性

○浦南 至徳 (北海道大)・荒木 健治 (北海学園大)・宮永 喜一・栃内 香次 (北海道大)

Q1-2 動詞の直前のガ格名詞句の機能の HPSG と DRT による扱い

牛袋 男 (東北大)

Q1-3 スケジューリングタスクにおける自由発話音声認識の意味抽出の一手法

○葭原 裕久・樽松 明 (電通大)

Q1-4 決定リストによる同形異音語の読み分け

○梅村 祥之・清水 司 (豊田)

Q1-5 文字連鎖の統計的特徴を利用した音声認識誤り訂正手法

○垣 智・隅田 英一郎・飯田 仁 (ATR)

Q1-6 バランスの遷移による聞き手主導の発話意図解釈

黒澤 義明 (広島市大)

A3 3月24日(火) 16:30-18:10 対話システム

A3-1 対話における文脈情報を用いた指示詞・形式名詞の解析

○横田 聡一郎・武田 紀子・飯田 善久 (成蹊大)

A3-2 計算機との自然言語の対話によるバックツァー決定システム

○武田 紀子・飯田 善久 (成蹊大)

A3-3 多重対話文脈を用いたロバストな実時間音声対話理解

○中野 幹生・宮崎 昇・平沢 純一・堂坂 浩二・川端 豪 (NTT)

A3-4 うなずき・相槌による音声対話システムの理解状態開示

○平沢 純一・中野 幹生・川端 豪 (NTT)

A3-5 自由展開タイプの対話のための対話処理システム

○目良 和也・藤澤 未央・高木 俊和 (広島市大)

B2 3月24日(火) 16:30-18:10 語彙II

B2-1 単語意味辞書と単語体系

横尾 昭男 (ATR)・宮崎 正弘 (新潟大)・白井 諭 (NTT)・○阿部 さつき・
小船 園望 (NTT アドバンステクノロジー)・池原 悟 (鳥取大)・大山 芳史・小倉 健太郎 (NTT)

B2-2 構文意味辞書と構文体系

白井 諭 (NTT)・横尾 昭男 (ATR)・中岩 浩巳 (NTT)・○渡邊 いづみ・高橋 直美・
関 嘉代 (NTT アドバンステクノロジー)・池原 悟 (鳥取大)・宮崎 正弘 (新潟大)

B2-3 日本語動詞句相当慣用表現の収集とカバレッジ評価

○土井 伸一・田村 真子・亀井 真一郎 (NEC)

B2-4 連想実験に基づく概念間の距離の計算法と概念辞書の構築 — 学習基本語彙による距離空間の定量化 —

○岡本 潤・石崎 俊 (慶應大)

B2-5 名詞・形容詞の共起関係の定量的考察 — 名詞基本語彙の連想実験から —

○安藤 まや・石崎 俊 (慶應大)

C2 3月24日(火) 16:30-18:10 統語解析II

C2-1 HPSGによる統語解析のための統計モデル

○光石 豊・鳥澤 健太郎・辻井 潤一 (東京大)

C2-2 確率付決定木を用いた日本語構文解析

○柏岡 秀紀・河田 康裕・金城 由美子・Andrew Finch・Ezra Black (ATR)

C2-3 決定木の混合を利用した日本語係受け解析

○春野 雅彦 (ATR)・白井 諭・大山 芳史 (NTT)

C2-4 「の」型名詞句における名詞間の意味的係り受け規則の自動生成

○中井 慎司・池原 悟 (鳥取大)・白井 諭 (NTT)

C2-5 複合化確率文脈自由文法の提案とその評価

○横林 由理枝・富浦 洋一・日高 達 (九州大)

A4 3月25日(水) 9:20-12:00 情報抽出・整理

A4-1 クラスタリングアルゴリズムを利用したWWW情報整理システムの作成と評価

○中村 順一 (京都大)・村井 幸一・馬場 博巳・甲斐 郷子 (九工大)

A4-2 パターン処理に基づく情報抽出システムの概要 — MUC7, MET2 参加システム —

○福本 淳一・下畑 光夫・榊井 文人・杉尾 俊之 (沖電気)

A4-3 新聞記事における写真と言語表現の対応の学習

○山田 剛一・杉山 一成・中川 裕志 (横浜国大)

A4-4 情報抽出のための新聞記事テキスト分析

○木田 敦子・乾 裕子 (計量計画研究所)・桑畑 和佳子・橋本 三奈子・落谷 亮・西野 文人 (富士通)

A4-5 複数の関連テキストに対する情報集約ツール

落谷 亮(富士通)

A4-6 企業名からの職種の推定

測 武志(NTT)

A4-7 単一言語のアラインメント

○ 飯伏 勝俊・鳥澤 健太郎・辻井 潤一(東京大)

B3 3月25日(水) 9:20-12:00 語彙 III

B3-1 名詞句「NP の NP」の意味関係とその統計的性質

○田中 省作・飯田 健二・富浦 洋一・日高 達(九州大)

B3-2 節境界を越えた述語—項関係の計算モデル

○船山 仲他・野田 尚史・馬野 元秀・宇野 裕之・中村 直子・佐藤 浩(大阪府大)

B3-3 Real-World Language-Independent Early-Termination Analogy Solver

○Yves Lepage・飯田仁(ATR)

B3-4 Word Sense Disambiguation Based on ‘Better-Way Principle’

○奥村 学・藤原 滋(北陸先端大)・Graeme Hirst(Toronto大)

B3-5 学術用語シソーラス作成のための語彙抽出にかかわる言語データの検討

○荻野 孝野・出羽 達也(EDR)・影浦 峯(学術情報センター)

B3-6 文脈辞書を用いた頑健な多義性解消

那須川 哲哉(日本IBM)

B3-7 連体用法に着目した形容詞辞書の作成と名詞意味素性の再分類

○横山 晶一・湯浅 誠貫(山形大)

B3-8 機械処理のための方言結合価辞書の作成 — 置賜方言を対象に

○横山 晶一・我妻 信博(山形大)

C3 3月25日(水) 9:20-12:00 統語解析 III

C3-1 文法的不適格文に対する統語的制約を用いた漸進的解析手法

○加藤 芳秀・松原 茂樹・外山 勝彦・稲垣 康善(名古屋大)

C3-2 文脈自由文法を基礎とするマルチモーダル入力対応文法とその分散解析法

○若梅 友則・田野 俊一(電通大)

C3-3 Structural Ambiguity Resolution Using Three Word Dependency Relations

○Eduardo de Paiva Alves・呉 浩東・古郡 廷治(電通大)

C3-4 GLR 法に基づく統語解析過程の制御法 — LR 表工学の提案 —

田中 穂積(東工大)

C3-5 局所 / 大域規則を用いた階層型日本語文パーザ

○藪 正樹・宮崎 正弘(新潟大)

C3-6 オブジェクト指向パーザ Power による日本語構文解析とその評価

○高橋 博之・宮崎 正弘 (新潟大)

C3-7 痕跡処理のための逐次型一般化 LR パーザ SGLR の拡張

○五百川 明・宮崎 正弘 (新潟大)

C3-8 中国語表現の認識構造モデル

○周 強・宮崎 正弘 (新潟大)

S1 3月25日(水) 13:00-15:00 特別セ(コーパスに基づく談話・対話研究: コーパス・理論)

S1-1 日本語の書き言葉(ナラティブ)におけるヴォイス(態)の選択要因 — トピック性を中心に —

○金原 いれいね・堀江 薫 (東北大)

S1-2 日本語同格節構文の3つの型の選択モデル

渡部 泰門 (東北大)

S1-3 コンテキスト、システム、テキスト: 選択体系機能理論による自然言語のモデル化

山口 登 (福島大)

S1-4 対話データベースの自動プロファイリング: 効率的話題タグ付与をめざして

○田中 英輝・Kristiina Jokinen・横尾 昭男 (ATR)

S1-5 現代日本語「Nのコト」を選択する述語の種類: コーパスに基づく分析

○笹栗 淳子 (九州大)・金城 由美子 (ATR)

S1-6 文タイプと文間関係の情報を付与したテキストコーパスの作成

○黒橋 禎夫・木下 恭子・山田 悟史・長尾 真 (京大)

P2 3月25日(水) 13:00-14:40 ポスター(検索・学習)

P2-1 帰納的学習を用いた訳語推定手法の固有名詞における有効性の評価

○笹岡 久行・荒木 健治・桃内 佳雄 (北海学園大)・栃内 香次 (北海道大)

P2-2 知識を導入した GA-ILMT の有効性の確認

○工藤 晃一・荒木 健治・桃内 佳雄 (北海学園大)・栃内 香次 (北海道大)

P2-3 GA-ILMT における翻訳例の局所的対応関係に着目した帰納的学習の有効性について

○越前谷 博 (北海道大)・荒木 健治 (北海学園大)・栃内 香次 (北海道大)

P2-4 最大エントロピー法による確率モデルのパラメタ推定に有効な素性の選択について

○白井 清昭・乾 健太郎・徳永 健伸・田中 穂積 (東工大)

P2-5 中間部分一致検索における単語区切り位置情報の検索精度に対する効果

○奥 雅博・永井 良史・野田 良輔 (NTT)

P2-6 部分一致検索における単語区切り位置情報インデックス化による高速化とその効果

○永井 良史・奥 雅博 (NTT)

P2-7 表層表現を手がかりにした続報記事の検出

○阪元 慶隆・渡辺 靖彦・岡田 至弘 (龍谷大)

Q2 3月25日(水) 13:00-14:40 ポスター(解析)

Q2-1 コネクショニストモデルを用いた日本語単文解析モジュール

○本木 実・渡邊 啓・篠原 理一郎・島津 好生(九産大)

Q2-2 高次 N-gram を用いた形態素解析の検討

村上 仁一(NTT)

Q2-3 高速日本語形態素解析ソフト「SuperMorpho-J」

○多田 智之・○金岡 秀信(オムロン)

Q2-4 最大エントロピー法を用いた日本語係り受け整合度の計算

江原 暉将(NHK)

Q2-5 統計に基づく部分係り受け解析

○乾 健太郎・白井 清明・徳永 健伸(東工大)

Q2-6 分類木を用いた日本語長文の自動分割

○張 玉潔・尾関 和彦(電通大)

S2 3月25日(水) 15:10-17:10 特別セ(コーパスに基づく談話・対話研究: 対話現象の分析)

S2-1 自然談話データ「女性のことば・職場編」による談話研究の実例と利用法

○遠藤 織枝(文教大)・○本田 明子(筑波大)

S2-2 マルチモーダル対話における参照表現パタンの分析

○加藤 恒昭・中野 有紀子(NTT)

S2-3 多人数対話の特徴分析

○石崎 雅人・加藤 恒昭(NTT)

S2-4 対話コーパスにおける表層情報を利用した発語内行為タグの推定

○駒谷 和範・荒木 雅弘・堂下 修司(京成大)

S2-5 協調作業対話における同意・不同意表現の使われ方

○矢野 博之・伊藤 昭(通総研)

S2-6 WWW を介した対話システムとユーザとの対話の分析

○熊本 忠彦・伊藤 昭(通総研)

P3 3月25日(水) 15:10-16:50 ポスター(言語学)

P3-1 EDR 電子化辞書を用いた、文系研究者向き言語分析

○荻野 孝野・三吉 秀夫・小林 正博(EDR)

P3-2 形容詞類の連体修飾にみられる連用的意味について

○神崎 享子(早稲田大)・井佐原 均(通総研)

P3-3 On With-Deletion

廣江 顕(九州大)

P3-4 否定移動のパラメータ的変異について

田窪 行則・○片岡 喜代子(九州大)

P3-5 量・程度・限度 — 「ばかり」節の意味解釈を中心にして —

原田 康也・○本多 久美子(早稲田大)

P3-6 日本語文末表現の文体的単調さの解消

○河野 香織・黒澤 義明・相沢 輝昭(広島市大)

Q3 3月25日(水) 15:10-16:50 ポスター(コーパス)

Q3-1 コーパスからの格フレーム半自動獲得のための支援環境の構築

○中塚 幸毅・宇津呂 武仁・松本 裕治(奈良先端大)

Q3-2 Dictionary of English Etymology for NLP and Related Tagging Utility Programs

○佐良木 昌(佐良木技術翻訳事務所)・長田 哲男(早稲田大)・渡辺 祐樹(豊橋技科大)・白井 諭(NTT)

Q3-3 専門用語コーパスにおける語彙的な階層付けの可能性

○榎沢 康子(慶應大)・辻 慶太(東京大)・影浦 峯(学術情報センター)

Q3-4 RWCP における研究用テキストデータベースの開発

豊浦 潤・高橋 裕信(RWCP)・井佐原 均(通総研)・荻野 紫穂(日本IBM)・桑畑 和佳子・
橋本 三奈子(富士通)・徳永 健伸(東工大)・橋田 浩一・元吉 文男(電総研)

Q3-5 言語解析と語彙知識獲得のための支援環境

松本 裕治(奈良先端大)・徳永 健伸(東工大)・奥村 学(北陸先端大)・大林 正晴(管理工学研究所)

Q3-6 ネットニュース用 XML タグセットの検討とその構造解析への応用

○浅野 久子・永田 昌明(NTT)

S3 3月25日(水) 17:20-19:20 特別セ(コーパスに基づく談話・対話研究: 非言語情報の利用)

S3-1 The Relationship between Sound and Meaning in Japanese Back-Channel Grunts (あいづちの音響的部品とそれぞれの意味)

Nigel Ward(東京大)

S3-2 プロソディおよび文脈情報を用いた応答の選択・調節の試み

塚原 渉(東京大)

S3-3 ユーザーに合わせた対話ベースの調節

岩瀬 竜也(東京大)

S3-4 自然言語コーパスにおける「笑い」を利用したソフトウェアの要求獲得と情報検索への応用

土井 晃一(富士通)

S3-5 音声対話コーパスに基づく繰り返し応答の分析

○下嶋 篤(ATR)・小磯 花絵(ATR/ 奈良先端大)・Marc Swerts(IPO)・片桐 恭弘(ATR)

S3-6 韻律情報に基いたあいづち挿入箇所 の推定

○野口 広彰(奈良先端大)・小磯 花絵(ATR/ 奈良先端大)・福田 泰子(大阪外大)・伝 康晴(奈良先端大)

B4 3月25日(水) 17:20-19:20 機械翻訳I

B4-1 用例ベース処理を用いたパターンベース翻訳システム

○渡辺 日出雄・武田 浩一(日本IBM)

B4-2 中間概念として認識構造を用いた多言語翻訳方式

○川辺 諭・宮崎 正弘(新潟大)

B4-3 ルールベース翻訳とパターン翻訳の融合

○長瀬 友樹・小玉 修司・小屋岡 剛一(富士通)

B4-4 漸進的な機械翻訳のための文法規則の変換手法

○浅井 悟・松原 茂樹・外山 勝彦・稲垣 康善(名古屋大)

B4-5 Field Structure and Generation in Transfer-Driven Machine-Translation

○Michael Paul・隅田 英一郎・飯田 仁(ATR)

B4-6 「協調融合機械翻訳」における訳語選択

○山田 節夫・山本 和英・飯田 仁(ATR)

C4 3月25日(水) 17:20-19:20 N-gram・形態素解析

C4-1 平仮名 N-gram による平仮名列の誤り検出とその修正

新納 浩幸(茨城大)

C4-2 日本語形態素解析処理における和語部分の解析性能

○南木 一典(東洋大)・山内 佐敏(リコー)

C4-3 音声認識のための定型表現を用いた言語モデルの検討

○西崎 博光・中川 聖一(豊橋技科大)

C4-4 品詞タグ付きコーパスを直接利用した形態素解析

○山下 達雄・松本 裕治(奈良先端大)

C4-5 IDF を利用した n-gram 文字列の分類

○下畑 さより・山本 秀樹(沖電気)

C4-6 情報量最大を考慮し最長文脈を優先するタイ語ニューロタガー

○馬 青・井佐原 均(通総研)

A5 3月26日(木) 9:20-12:00 文書クラスタリング・構造化

A5-1 階層的な規則を用いた文書のクラスタリング

○佐々木 稔・北 研二(徳島大)

A5-2 自由記述回答のモダリティ表現に基づく分類

○乾 裕子(計量計画研究所)・内元 清貴・井佐原 均(通総研)

A5-3 キーワードによるネットワークニュース記事群の構造化

○内元 清貴・小作 浩美・井佐原 均(通総研)

A5-4 ネットニュース記事のタイプ分類

○中野 貴之・村田 真樹・長尾 真(京都大)

A5-5 出現情報を用いた新聞記事ジャンルの推定システム

○藤本 太郎・菅野 道夫(東工大)

A5-6 定義パタンの学習に基づく自動ハイパーテキスト化ツール

○内間 圭介・森 辰則・中川 裕志(横浜国大)

A5-7 共起情報を考慮した TFIDF 法に基づく関連文書間の自動ハイパーテキスト化

○岡村 潤・大森 信行・山口 登志実・森 辰則・中川 裕志(横浜国大)

A5-8 番組広報による TV 番組のクラスタリング

○浦谷 則好・山田 一郎(NHK)

B5 3月26日(木) 9:20-12:00 機械翻訳 II

B5-1 日英結合価パターン対辞書の一般利用者向け作成支援処理

白井 諭(NTT)・横尾 昭男(ATR)・○奥山 信輔・河村 美砂子(NTT ソフトウェア)・池原 悟(鳥取大)

B5-2 ウェブ英文ページの速読支援

○奥西 稔幸・吉見 毅彦・山路 孝浩・福持 陽士(シャープ)

B5-3 漸進的対応付けによる対訳表現抽出

○米沢 恵司・松本 裕治(奈良先端大)

B5-4 UPF: 機械翻訳ユーザ辞書の共通フォーマット

○亀井 真一郎・桧山 努(NEC)・伊藤 悦雄(東芝)・藤井 美樹子(ノヴァ)・平井 徳行(シャープ)・
斎藤 由香梨(富士通)・高橋 雅仁(松下電器)・村木 一至(NEC)

B5-5 インターネット翻訳サービスユーザからの辞書データ収集

○中山 圭介・熊野 明(東芝)

B5-6 翻訳文評価法の一考察

山内佐敏(リコー)

B5-7 機械翻訳システムの後編集ツールのススメ

武田 浩一(日本IBM)

B5-8 非対訳コーパスからの日英機械翻訳ルールの自動獲得

○田中 貴秋・松尾 義博・大山 芳史(NTT)

C5 3月26日(木) 9:20-12:00 コーパス・言語分析 I

C5-1 日本語テキスト処理のための「かな」コード試案

藤田 毅(九州産業大)

C5-2 大規模な英文の分析

田中 康仁(兵庫大)

C5-3 用例による換喩の解析

○山本 専・村田 真樹・長尾 真(京都大)

C5-4 文法を利用した N-gram モデルのタスク適応

伊東 伸泰・○荻野 紫穂(日本 IBM)

C5-5 用言の意味マーカと名詞の意味素性の関係のギャップを part-of 関係および名詞の意味情報を用いて解決する手法

○関 洋平・飯島 正・原田 賢一(慶應大)

C5-6 大域文書修飾 (GDA) の進捗と展望

○橋田 浩一(電総研)・長尾 確(ソニー CSL)・高橋 直人(電総研)・内山 将夫(信州大)・
Christoph Neumann(東工大)

C5-7 日本語会話文の構文木付コーパスの作成

○河田 康裕・金城 由美子・柏岡 秀紀(ATR)

C5-8 同音異義語誤りの校正における各種の共起制約データの有効性の評価

伊吹 潤(富士通)

A6 3月26日(木) 14:40-16:40 文書要約

A6-1 聴覚障害者のための字幕つきテレビ放送作成プロジェクト

○若尾 孝博(TAO)・江原 暉将(NHK/TAO)・沢村 英治・丸山 一郎(TAO)・
白井 克彦(早稲田大/TAO)

A6-2 新聞記事を対象とした企業動向に関する事象構造の抽出

○桑畑 和佳子・橋本 三奈子(富士通)・木田 敦子(計量計画研究所)・落谷 亮・西野 文人(富士通)

A6-3 論文間の参照情報を考慮した学術論文要約システムの開発

○難波 英嗣・奥村 学(北陸先端大)

A6-4 ニュース文を対象にした局所的要約知識の自動獲得

加藤 直人(NHK)

A6-5 聴覚障害者用字幕生成のための言い替えによるニュース文要約

○山崎 邦子・三上 真・増山 繁・中川 聖一(豊橋技科大)

A6-6 討論型記事群の一般用語出現傾向と知的ニュースリーダー HISHO への応用

○小作 浩美・内元 清貴・井佐原 均(通総研)

B6 3月26日(木) 14:40-16:40 生成・認知モデル

B6-1 サッカー実況システム MIKE における実時間文章生成

○田中 久美子・橋田 浩一・野田 五十樹(電総研)

B6-2 日本語学習支援のための LTAG による文の生成と診断について

○加藤 伸隆・神田 久幸・馬目 知徳・伊丹 誠・伊藤 紘二(東京理科大)

B6-3 人間の言語的思考プロセスの予測シミュレーションへの適用 — 海外為替変動予測を例にして —

○小林 一郎(法政大)・菅野 道夫(東工大)

B6-4 文章の読みやすさに影響する要因の分析

○乾 裕子 (計量計画研究所)・江村 ひとみ (東京女子大)・石井 啓子・末広秀子 (富士通)

B6-5 英文語順に準拠した日本語生成

佐田 いち子・○九津見 毅・日野 ちなみ・関谷 正明 (シャープ)

B6-6 談話構造と読解過程に注目した英文精読支援システムの開発

井佐原 均 (通総研)

C6 3月26日(木) 14:40-16:40 コーパス・言語分析 II

C6-1 助詞分布における知識発見法による書き手の識別ルールの生成

金 明哲 (札幌学院大)

C6-2 助詞 < に > の二方向性

加藤 弘 (東北大)

C6-3 品詞体系の変換を考慮した階層的品詞体系の設計

○望主 雅子・亀田 雅之 (リコー)

C6-4 コーパスを用いた名詞と接辞の形態的分類

○丸元 聡子・乾 裕子 (計量計画研究所)・荻野 孝野 (EDR)

C6-5 タイプ II の言語ヘッジに対するファジィ集合演算手法

○小谷内 郁宏・佐野 典秀 (静岡学園短大)・角谷 浩享 (CRC 総研)

C6-6 構文解析木を対象とするデータ解析法の研究: EDR コーパス文例を用いた助詞の分析

○雄山 真弓・岡田 孝 (関西学院大)